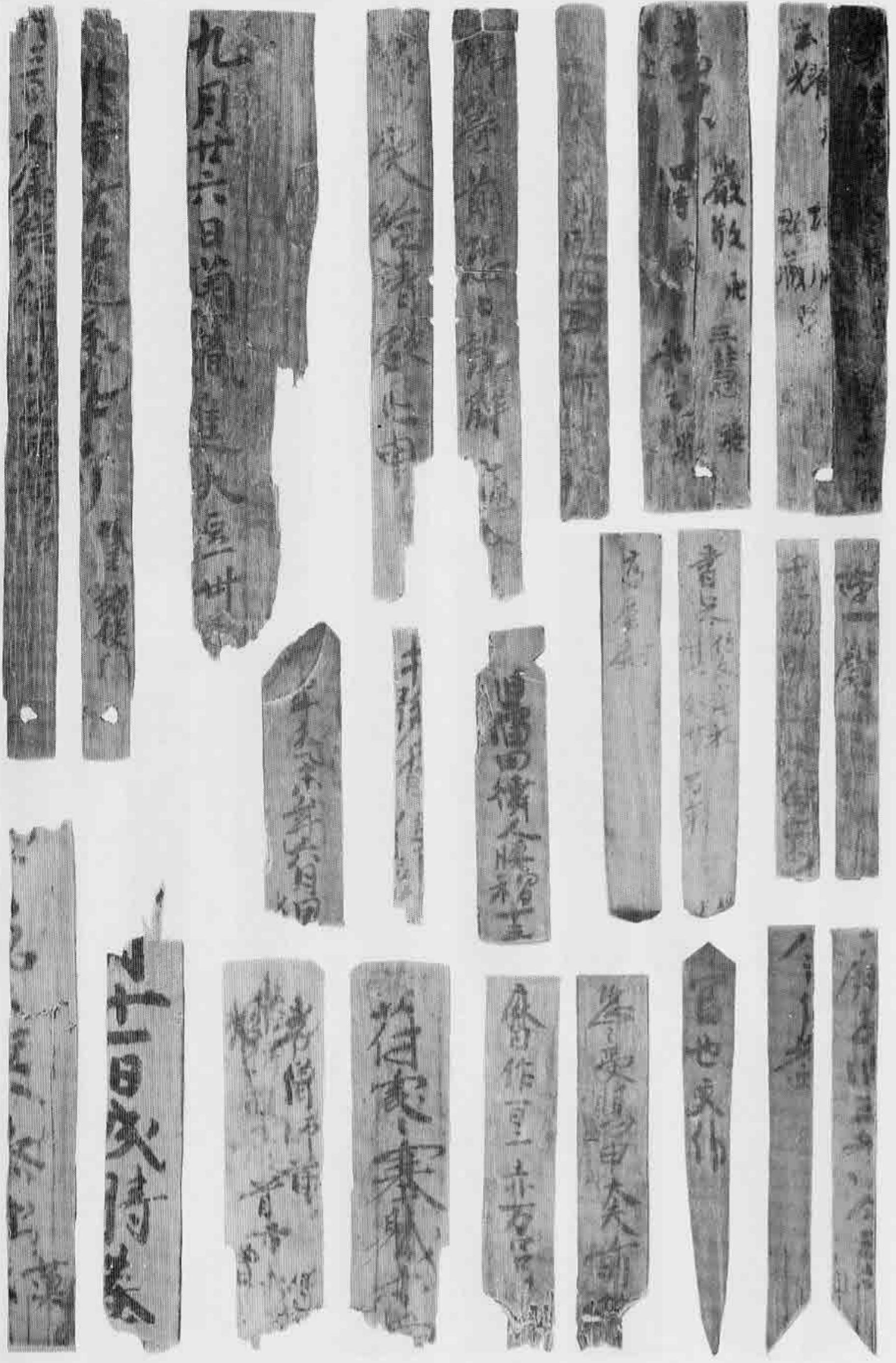


昭和五十年十二月
飛鳥藤原宮発掘調査出土木簡概報(二)

藤原宮出土木簡

奈良国立文化財研究所





この概報はさきに公刊した「飛鳥・藤原宮発掘調査出土木簡概報(一)」(昭和48年5月)以後、藤原宮跡及び藤原京の調査で出土した木簡について、その主要なものを収録した。出土総点数は589点である。但し、「飛鳥・藤原宮発掘調査出土木簡概報(一)」に収録したものも参照に便宜のため末尾に再録した。

一 木簡出土の地点と状況

第10次調査(6AJL 昭48・10と昭49・7)

第10次調査は、橿原市営四分団地増設工事にもなう事前調査として、藤原宮西面南門推定地の南側にあたるところで行なった。検出した主な遺構は、藤原宮の建物6棟、柵3(大垣1)、溝3、土壇2の他、弥生時代の井戸3、土壇多数と古墳時代の土壇1、七世紀の土壇3である。木簡は、このうち、藤原宮の西辺をかぎる大垣SA258の内側で、南から北に流れる溝SD1400から瓦、須恵器、土師器とともに計4点が出土している。

第11次調査(6AJF 昭49・1と49・3、50・1)

第11次調査は大極殿の西150mにあたる地区に資材置場を造成する届出がなされたため、工事に先立って実施したものである。検出した主要な遺構は、柵1、溝3、井戸2、土壇1で、木簡は、藤原宮の内裏西外郭を限る南北柵SA1670の西側にそって南から北へ流れる溝SD1680から計6点が出土した。

第17次調査(6AJH 昭50・4と50・6)

第17次調査は、橿原市営日高山住宅増設工事にもなう事前調査として、推定藤原京左京七条一坊にあたる地点で行なった。検出した主要な遺構は、藤原宮の時期の柵1、井戸2、溝2である。木簡は井戸SE185から計9点が出た。この井戸は、内法0.8×0.9m、深さ約1.5mをはかるもので、井籠組の井戸枠が4と5段残っていた。井戸は多量の礫と瓦で埋められており、木簡はその中から、鞆、羽口、人形及び少量の土器とともに出土した。瓦の中には法隆寺若草伽藍に類例のある扇形忍冬文軒平瓦がある。

第18次調査(6AJE 昭50・6と50・12)

第18次調査は藤原宮北面中門をふくむ約230mで行なっ

た。検出した主要な遺構は、門1（猪使門）、建物2、溝（外濠を含む）6、柵2、土壇3で、木簡は、外濠を含む溝4条と土壇1とから計570点が出土した。

木簡をもっとも多数出土したのは北面中門（SB1900）の外側で、藤原宮の北辺を東から西へ流れる外濠SD145の中から計551点出土した。なおSD145は発掘区中央部で北へ流れるSD1901Bにつながっている。SD1901Bは発掘面積も少く、SD145の東半部と同一の流れなので木簡の点数は両者を含めて計算している。SD145は、一九六七年、奈良県教育委員会の行なった調査によって、藤原宮東北辺部分で検出され、木簡も約800点近く出土している。紀年をもつ木簡は持統九年より和銅二年までのものであった。⁽¹⁾今回検出したSD145では持統五年（辛卯）から大宝三年までの紀年をもつ木簡が出土している。木簡は溝の東半部で特に多数検出された（附図1参照）。

土壇SK1903はSD145の南岸、北面中門の東約15mのところ検出され、そこから木簡が12点出土した。木簡の中には大宝三年の紀年のある付札と、門号「蝮王」「猪使門」と記したものがあつた。平安宮では北面中門を偉鑿門（猪使門）、北面東門を達智門（丹治比門）と称しているから、

藤原宮の北面中門・東門が猪使門・蝮王門である可能性は大きい。そうとすれば藤原宮の宮城門号に新知見を加えたものである。また北面中門の内側で東から西に流れる溝（内濠）SD143から2点、及び北面中門造営時に埋められた南北溝SD1901Aから計5点木簡が出土している。しかしながらSD143・SD1901Aから出土した木簡には判読できるものはなかった。

「飛鳥・藤原宮発掘調査出土木簡概報(一)」から再録した藤原宮出土木簡の地点と状況は次の通りである。

第1次調査（6AJH 昭44・12ノ45・5）

第1次調査は宮域の南辺中央部で行ない、かつて日本古文化研究所の調査で検出され、未報告になっていた朝堂院南門と推定される遺構を再確認し、同門と朱雀門の関連を究明しようとした。検出した主な遺構は、再検出の推定朝堂院南門SB500と、その南北を走る東西溝SD501とSD502で、朝堂院南門と別個の朱雀門は存在しないことが明らかとなった。木簡は南溝SD501（1点）とSD502（26点）から27点出土している。

第2次調査（6AJF 昭45・7ノ45・11）

第2次調査は大極殿跡の東南地域について行なった。検出した主要な遺構は礎石を有する建物・池・溝・柵等で、木簡は東西棟礎石建物SB530の桁行柱列の東から五本目の柱穴の埋土中から2点検出したが断簡で判読し難い。この建物は朝堂院回廊から約30m北にあり、かつて日本古文化研究所の調査でも一部検出されていたもので、今回の第2次調査とあわせて桁行六間・梁間四間の礎石建物であることが判明した。

第4次調査 (6AJF 昭46・11) (47・5)

第4次調査は大極殿東方区域で行ない、藤原宮の遺構としては溝、柵、礎敷等を検出した。木簡は藤原宮の溝SD105 (42点) SD850 (7点) とから計49点が出土した。SD105は内裏東外郭を限る柵SA865の東約5mにあつて、奈良県教育委員会の調査で発見され、木簡を出土した溝SD105の上流にあつている。SD850はSD105のさらに東約17mのところにあつて奈良県教育委員会の調査で発見された溝SD101につながる可能性がある。

第5次調査 (6AJL 昭47・3) (47・8)

第5次調査は藤原宮の西辺、西面中門以南の官衙地域で

行ない、南北棟の建物2棟と井戸1を検出した。木簡は井戸SE1105で計3点が出土した。

注(1)・(2) 『藤原宮』 奈良県教育委員会

二、木簡の形態分類

6011型式 短冊形。

6015型式 短冊形で、側面に孔を穿ったもの。

6019型式 短冊形と推定できるもの。

6021型式 小型矩形のもの。

6022型式 小型矩形の材の一端を圭頭にしたもの。

6031型式 長方形の材の両端左右に切りこみをい

れたもの。

6032型式 長方形の材の一端の左右に切りこみを

いれたもの。

6033型式 長方形の材の一端の左右に切りこみを

いれ、他端を尖らせたもの。

6039型式 長方形の材の一端の左右に切りこみが

あるが、他端は折損あるいは腐蝕して不明のもの。

6051型式 長方形の材の一端を尖らせたもの。

三、 凡例

6059型式 長方形の材の一端が尖って他端の形態が

不明のもの。

以下、出土遺構ごとに本文を掲げる。各遺構から出土し

6061型式 用途の明瞭な木製品に墨書のあるもの。

た木簡の配列は用途別に記載し、最上段に出土地点（アル

6065型式 ある種の用途をもつと推定される木製品

ファベット・数字）、つぎの段に形態分類記号（本概報で

に墨書のあるもので、その用途が判然と
しないもの。

は千位の6を省き、3ケタで表わす）それぞれ記した。

6081型式 折損、腐蝕その他によって原形の判明し

「」が二個あるものは表裏に記載のあることを示し、「」
の中にさらに「」のあるものは同一面に別筆のあること

ないもの。

を示す。

6091型式 削屑

GAJL-SD1400

EL 64 039 「六□□□」

EK 64 032 「□母□□□□」

EC 64 081 「□一斗五□」
(升)

GAJF-SD1680

RQ 09 081 「廿四 □卷四」

RQ 09 051 「荊田郡長足里道守奈加麻呂」
「五斗八升」

GAJH-SE1850

NR 84 019 「詔輕阿比古杲安」

「尔刀相諸之令特□□□□」
(升)

NR 84 059 「參出 廿四日急」

「六取物者□者之交□」

NR 84 011 「繫盤」

NR 84 011 「第十八 敬敬飛 三慧飛
心持飛 安雲飛
十上

「尊體飛 令威飛 賢(升)飛
玄耀飛 顯威飛

NR 84 031 「丹(液)國加佐郡白藥里大積久己利魚腊一什」
「五升和銅二年四月」

GAJE-SD145

KM 28 019 「符處之塞職亦受」
(別筆)

「常僧師首 常僧市僧
常藥藥首市僧」

KM 30

019

五百足
佐文口七枚
其介葺百束

高屋尉

KM 30

081

真蕨女
真(女)

KM 31

081

大初位(下)
上縣台

KM 33

021

柏女(子)

KM 33

081

椋人足嶋

KM 33

081

国覓忌寸東人

KM 30

081

十九日志不口ア道世 味口

呂

廿一人
(右)

KM 31

081

五月五日呂

KM 33

081

万呂 山代伊美伎吉年

KM 29

081

八月 奉

KM 32

081

丸子白麻呂

田ア人 日下ア子麻

KM 35

081

酒四斗(斗)
奉

三升 丈麻

KM 30
081
「也」
末呂
「」

KN 29
081
「反」
麻呂
「」

KM 29
081
「那貴首手人年廿八」
「」

KM 29
081
「玉作」
富
「」

KM 29
081
「(里)人大伴ア加」
「(廿)」

KM 30
051
「占ア尻」

KN 34
081
「物ア小楯」

KM 33
081
「(大伴ア)」
十上
「ア黒末呂」

KM 29
081
「五斤」

KM 29
081
「七斗」

「三升」

KM 29
081
「三升」

KM 29
081
「五升」

KN 34
081
「麦五斗」
「二」

KM 30
081
「須溜二升」

「了益」

KN 35
081
「麻子油三升四合三勺」

「三升」

KM 31
081
「(草)本」

KM 29 019 「丙申年七月旦波國加佐評□」

KN 35 033 「大寶三年十一月十二日御野國榆皮十斤」

KM 29 039 「丙申□□□□□□□□」

KM 29 039 「尾治國海□」

KM 42 011 「丁酉年若^(令)倭國小丹生評置田里三家人三成」

「尾」

「御調塩二斗」

KN 34 081 「治國春了評春」

KM 32 011 「丁酉年若佐國^(小丹)□□□□^(里)了□
秦人□□□□斗」

KM 30 031 「^(尾張國)海評三家里人^(斗)□了□□
軍布」

KM 49 019 「己亥年九月三野國^(各)□□□□」

KM 28 039 「^(參河國)寸松里人海了國麻呂二

「□奴麻里五百木了加□□□□」

「□□□□^(斗)」

KM 32 039 「己亥年十月吉備中」

KM 31 051 「伊豆國仲郡」

「評輕了里□」

KM 29 031 「^(近江國)袖前評□□」

KN 34 031 「庚子年四月若佐國小丹生評^(木)里秦人申二斗」

KM 31 039 「尾治國知多郡」

KM 29 081 「上毛野國車評□□□□」

「大寶二年^(九)□」

KN 35	KM 41	KM 32	KM 33	KN 34	KM 34	KM 31	KM 34	KM 32
032	031	031	033	039	039	039	031	011
「安藝國佐伯郡雜膳二斗」	「次評 <small>(隱岐國)</small> 新野里軍布」	「出雲評支豆支里大贅煮魚 <small>瀬支</small> 」	「出雲國嶋根郡副良里伊加大贅廿斤」	「与射評大贅伊和 <small>(丹波國)</small> 」	「且波 <small>(國)</small> 」	「三方評 <small>(若狹國)</small> 」	「 <small>(若狹國)</small> 三方評竹田了里人塩 <small>二斗</small> 世不呂」	「小丹評 <small>(若狹國)</small> 里人」
「 <small>(素戔嗚尊)</small> 」								
KM 29	KN 34	KN 34	KN 29	KM 30	KM 42	KM 31	KM 32	
032	031	031	031	032	039	039	032	
「調三斗」	「海評 <small>中</small> 里止軍布」	「海評 <small>海里人</small> 小宮軍布」	「宇和評小 <small>代</small> 贅 <small>(伊予國)</small> 」	「 <small>(伊余國)</small> 」	「伊余國久米評」	「綾郡 <small>(讚岐國)</small> 」	「板野評津屋里猪脯 <small>(阿波國)</small> 」	
				「一斗」				
				「 <small>(評)</small> 」				
				「塩」				

KN 34	KM 30	KM 29	KM 29	KM 30	KN 31	KM 42	KN 34	KM 41	KN 34
039	011	031	033	081	081	032	081	033	039
「 □里□ 軍布 」	「進上年魚大鱈」	「 □郡□里鮎十八斤 」	「 荒河□□□ 」	「 □□里人大伴ア田□□ 」	「 □評□原里玉作□□□ 」	「 大伯評□□□□ 」	「 大荒城評胡麻 」	「 三家里海ア古尔 」	「 郡伊福ア里人 」

KM 29	KM 29	KM 28	KN 34	KM 33	KN 38	KM 34	KM 34	KN 31
081	081	081	032	032	081	051	039	032
「 家家家家家 」	「 □□□□□□□□ 地地藥藥□ 」	「 □集集使使 」	「 旧雷田 <small>(ア)</small> 人腰褶十三 」	「 □三斗 」	「 滑海藻 」	「 富也交作 」	「 千伊伎須 」	「 □□麻評 」

GAJH-SD501

JE 39 081 「花」

DP 62 081 「□□比六又□乃乎由比四」

「□ニ又□□□□」

DQ 63 081 「□□月廿四日」

GAJF-SD105

DM 62 081 「^(戸)□□^(少初位下)□□□□□□
戸主少初位下長谷ア首万呂

GAJF-SD850

DR 56 081 「外従従」

「□□ 奴一 □□」

「□□□□」

DN 62 081 「□□得文^(申)□□別戸造^(前)□□」

GAJL-SE1105

「□□古豆 大嶋十□明日木令」

AU 28 051 「□□ア奈波手」

DO 63 081 「長田□□」

「俵」

「收大□□^(夫)」

AU 28 081 「□□宮末呂又□□□□」

DP 62 059 「十九斤八兩」

「□□」

DP 62 081 「□□寸□□白□□戸□□」

図 1 SD145木簡出土状況略図

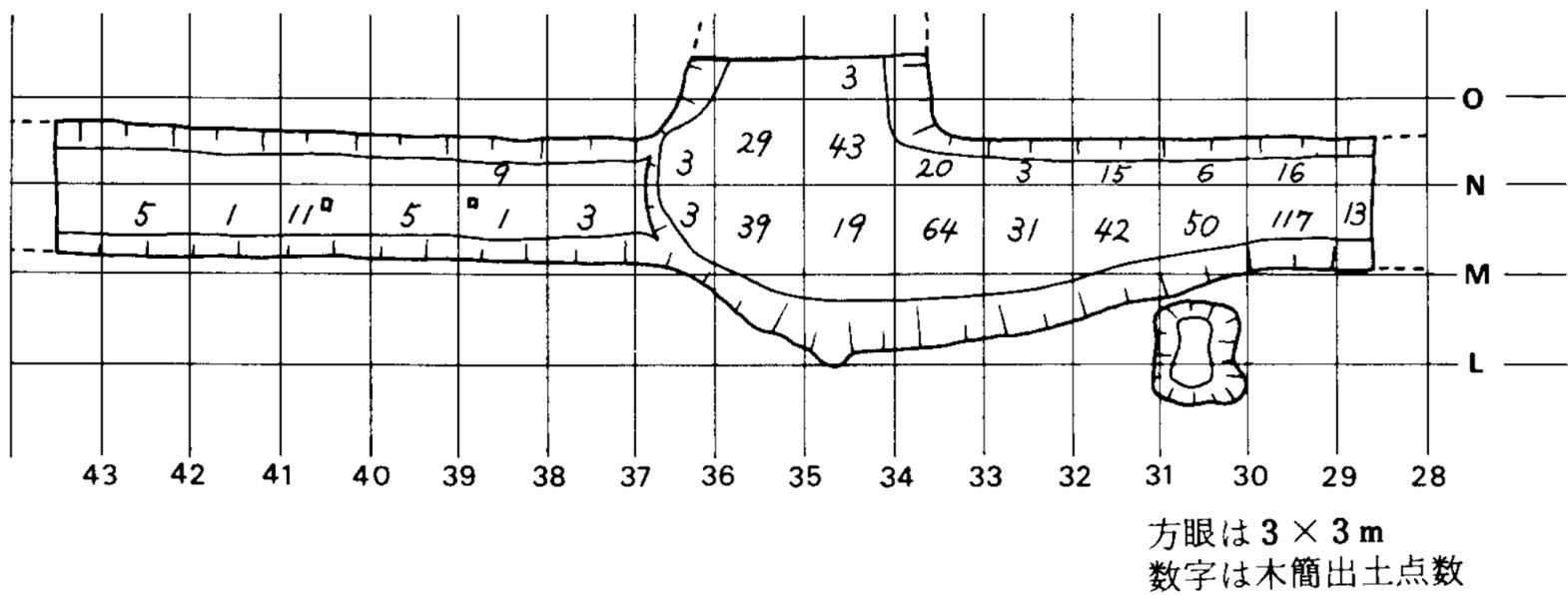


図 2 第18次木簡出土地点略図

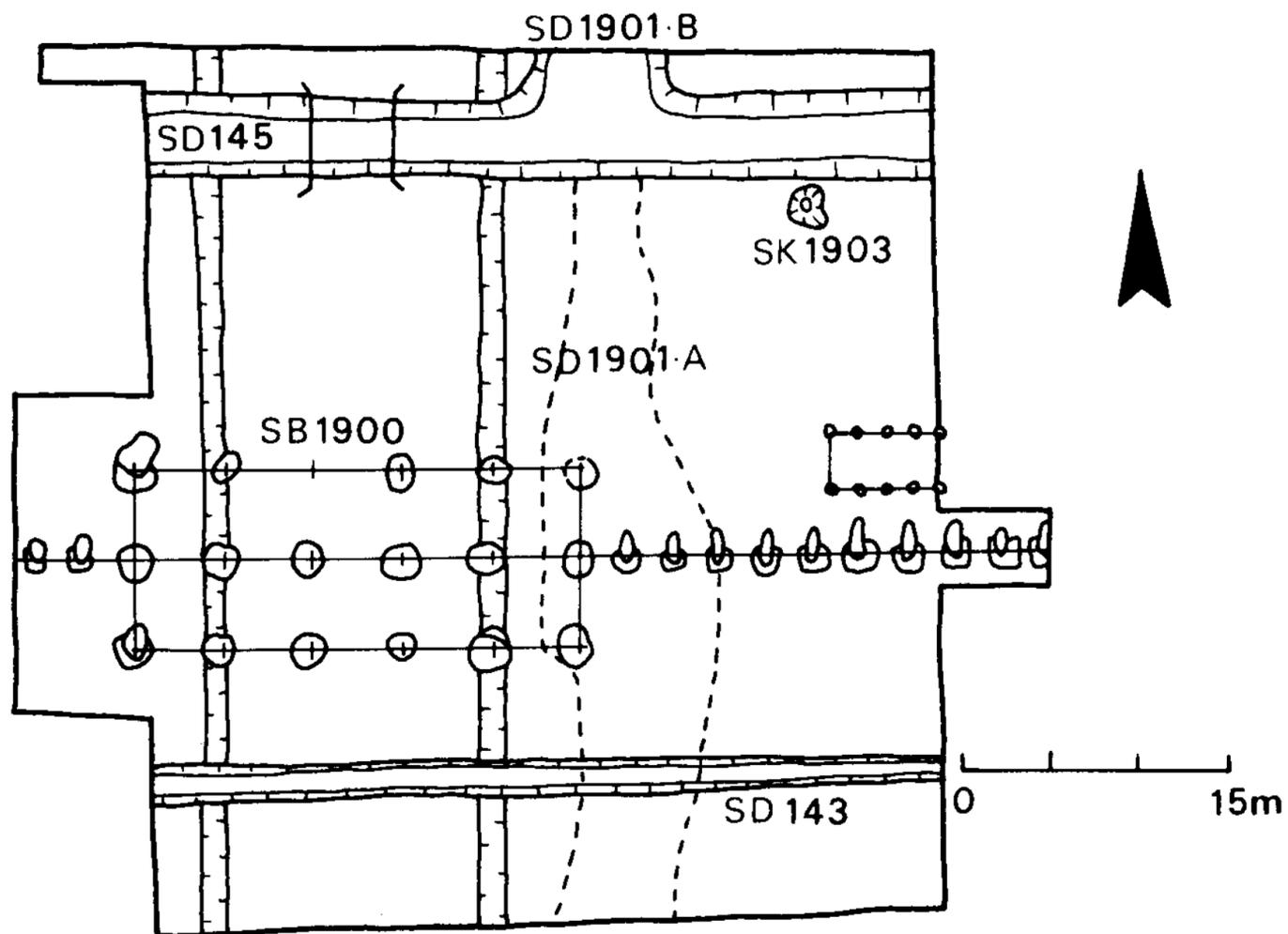
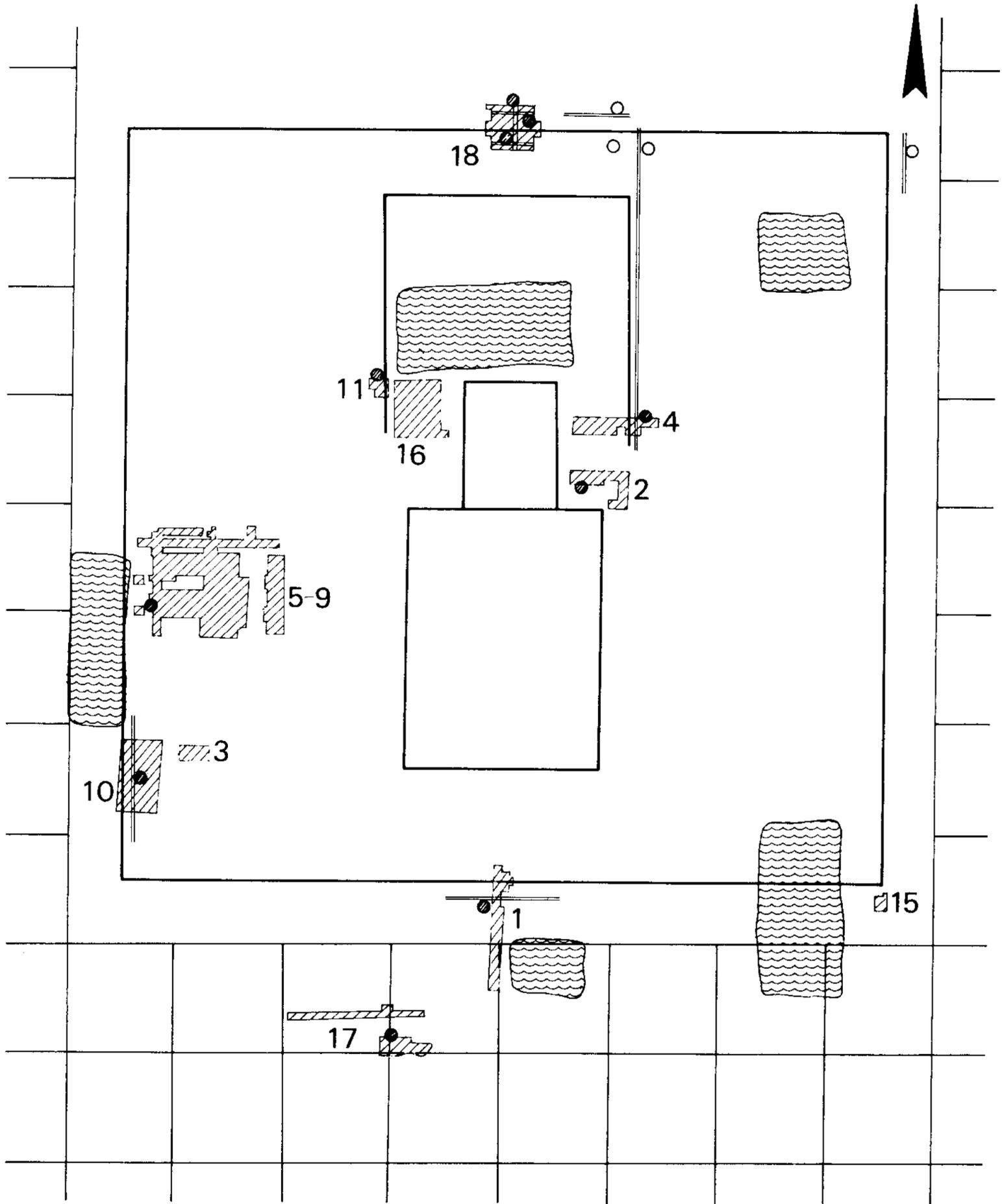


図 3 藤原宮木簡出土地点略図



○ 奈良県調査
 ● 本概報収録
 数字：調査次数